

教育・保育目標	支え合い認め合う ささはらっこ 弾む心で 未来へつなごう
重点目標	夢中になって遊ぶ子どもを支える保育者の関わり

項目	重点項目	現在取り組んでいるところ	達成目標・具体的施策	年度末評価	学校関係者評価
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で子どもの姿と具体的なエピソードをもとに話し合うグループワークを設けている。 夏に「命・平和・人権」について考える取り組みを行い、一人一人が愛される大切な存在であることを話す機会を持っている。 子どもが自分は大切にされていると感じられるように認める言葉をかけたりスキンシップを図ったりして、一人一人に愛情深く応答的に関わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で子どもへの愛情深い関わり方を考えたり話し合ったりするグループワークを月1回以上実施する。 子どもの様子や様々な職員との関わりが保護者にも伝わるようにホームページや保育システム（icuco）を用いて適宜発信する。 保護者アンケートにおいて「お子さんは様々な職員と挨拶や言葉を交わす等関わっていると感じる」と回答した人の割合が85%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員でグループワークを継続して行うことで子どもへの関わり方や受け止め方について考えることができた。引き続き、継続していきたいと考えている。 ホームページや保育システム（icuco）で子どもの様子や職員との関わりを発信する中で、一人一人が大切な存在であることを相互理解し合う機会になった。 保護者アンケートより「お子さんは様々な職員と挨拶や言葉を交わす等関わっていると感じる」と回答した人の割合が90.5%になり目標を達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> グループによる職員間での情報共有とさらに保護者への情報発信等、今後とも注力していきたい。 グループワークからさらに拡大して園全体の情報共有となる仕組み作りに取り組んでいただきたい。 毎朝職員が門の前に立ち登園する親子に挨拶や言葉を交わす姿がある。また保育中も担任以外の職員とも関わっていて良いと思う。保護者の安心感や子どもの居心地の良さに繋がっている。
	資質・能力を育む保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 乳児は週1回子どもの姿を職員間で共有し、共通理解を図っている。またカリキュラム作成時には発達に合った環境の構成に取り組んでいる。子どもの月齢や個性に応じて0、1、2歳児で連携しながら保育に取り組んでいる。 実際の子どもを共有する中で園庭の環境について棟ごとや幼児会議で話し合う時間を昨年度より増やしている。保育室環境については、各クラスの実態に応じて整えている。保育室環境についてもウェブマップを活用し異年齢保育を考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「こども園は心を弾ませられるような環境を整えている。」の肯定的回答の割合が85%以上になる。 乳児は、週1回のクラス会議の中で個の特性に応じた保育者の関わりや環境の構成について意見交換を行い取り組む。 幼児は、2週に1回幼児会議、棟会議等で園庭環境、保育室環境について話し合いを行う。 夢中になって遊べる環境になるように、乳幼児会議や棟会議等で意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「こども園は心を弾ませられるような環境を整えている。」という保護者アンケートの項目で87.8%の肯定的な意見をもらった。 クラス会議で子どもの実態を出し合い発達や個の興味関心に応じた環境の構成を進めていくことができた。又、研修会講師からより良い環境が整えられていると評価を受けた。 ウェブマップを活用して子どもの実態を捉えたり、関わり方の悩みを職員間で共有したりして子どもの興味関心を大切に園庭や保育室の環境の構成を行っていった。 園庭環境について乳幼児クラスがそれぞれにねらいや考えがあるので今後も連携を密にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス会議等での情報・意見交換に基づいた環境改善に取り組まれ効果を上げている。今後も注力をしていきたい。 園庭のつくりが外部からも見通しが良く地域の目が届きやすい。外を通っていると園庭から元気に声をかける子ども達の姿があり良い環境だと思う。
	ちがいを認め合える仲間作り	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が一人一人に愛情をかけることで、自分が大切にされていると感じ、周りの友達を大切に思う気持ちを育てる。 一人一人が違うことが当たり前で大切なことを心がけている。 異年齢での関わりが生まれるような保育室の配置や保育室・園庭の環境を整えている。 園庭で乳児と幼児が関わりながら様々な子どもがクラスを超えて遊ぶことを大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「お子さんはこども園で思いやりを育てている。」の項目で肯定的回答の項目が85%以上になる。 「こども園は異年齢の関わりが持ちやすい保育環境である。」の項目で肯定的回答の項目が85%以上になる。 乳児は毎日の保育システム（icuco）での発信や月1回の写真配信などで日頃の様子を伝えて行く。 幼児は保育システム（icuco）の“こどもだより”を通して集団の中での育ちを保護者に発信していく。 それぞれの会議等で、子どもの姿を共有して、保育者が一人一人の子どもについて把握したり、環境を整えるための情報を交換できるようにしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「お子さんはこども園で思いやりを育てている。」という項目については89.1%の保護者が肯定的に受け止め、目標を達成することができた。 「こども園は異年齢の関わりが持ちやすい保育環境である。」という項目については94.2%の保護者が肯定的に受け止めており、昨年度よりも保護者に園の取り組みがより伝わったと感じた。 乳幼児共に保育システム（icuco）を活用して保護者へ子どもの様子を伝えることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 園からの写真などを活用した発信をきっかけに、保護者と子どもの姿を共有できるよう意識していく。 会議等で子どもの情報共有は行っていた。今後は、さらに自分の意見を発信しやすい職員集団作りをめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に垣根を作らない方針が徹底され年齢を問わず活発に交流ができていく。構造的にも壁がない大きな保育室が効果的である。アンケートの好結果に繋がっているのではないかと。 子ども達の間でトラブル等が生じると年齢的にも保育者の対応が重要である。今後も保育者同士が意見交換し合い情報共有できる場を増やしてほしい。 異年齢と関わり合える保育室の配置等が良い環境だと思う。
	健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> 夏野菜の栽培を行い、調理の職員に調理してもらい旬の食材を味わう機会を作っている。 検査ケースを見て、旬の食材や好きな料理などの親子の会話が弾んでいる。 給食では、子どもの食欲が進むような盛り付けにしている。 幼児、乳児ともに遊具を使って体を動かす機会を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理の職員が旬の食材に関する掲示を作成するとともに、子ども達に話をする機会を年4回もつ。 健康や生活習慣についての話を年3回行う。また健康や生活習慣についての手紙を配布し、保護者啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回、季節ごとに旬の食材についての掲示をしたり旬の食材のメニューの時に各学年やクラスで話したりして子ども達が楽しく食べられるような食育を行ったことで、掲示をよく見たり食材に興味を持ちながら給食を食べたりする子どもの姿が増えた。 学期ごとに年齢に応じた健康や生活習慣の話をしたことで自ら手洗いうがい、歯磨き等丁寧に行う姿が見られている。 ほけんだよりの配布を月1回程度行い、保護者啓発を行った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 転倒による顔のケガが増えているため十分に体を動かして遊びながら体作りができる環境づくりを職員間で年3回程度話し合う機会を持ちたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分達で栽培したものを食べる経験は子ども達の食への興味を高めることになる。今後も継続していただきたい。 子ども達が実際に調理過程に関わる機会が多くなるとさらに食への興味が増すと思う。 ほけんだよりをきっかけに家庭でも親子で話す機会となることが期待される。次年度も月1回程度の配布を継続してほしい。

項目	重点項目	現在取り組んでいるところ	達成目標・具体的施策	年度末評価	学校関係者評価
保育者の資質向上	職員研修 園内研修 の充実	・職員会議でグループワークの機会を設け、今年度の研究テーマである“夢中になって遊ぶ子どもを支える保育者の関わり”について語り合っている。	・夢中になって遊ぶ子どもを支える保育者の関わる姿を動画で見る機会をもち（1年間で各クラス1回）少人数で教育・保育を振り返り実践に活かしている。 ・講師を招聘した園内研修の機会を年1回もち、得た学びを実践に活かす。	・夢中になって遊ぶ子どもを支える保育者の関わる姿を撮った動画を職員会議の時間に見ることで、状況がわかりやすく具体的な意見を出し合ったり保育を振り返ったりすることができた。 ・講師を招聘しての園内研修を4回実施し、学びの機会となった。 <課題> 職員会議内での語り合いの場に用務、調理の職員は年3回のみ参加である。語り合いの内容や参加方法を工夫し充実させていきたい。	・今後とも内外の研修に注力し、どの職員もが等しく学ぶ機会をもてるように管理職には調整を行ってほしい。 ・クラス単位での学びも重要ではあるが園全体としての取り組みの強化も進めていただきたい。 ・積極的に職員会議や研修が行われていて意見交換ができてきていると感じる。加えて保育者のストレスケアにも積極的に行ってほしい。
	チーム保育 の推進	・乳児、幼児、棟等での会議を定期的に行い、遊びの様子や子どもとの関わり方などを共有する場をもっている。	・幼児は早い段階からウェブマップを使用し、子ども理解を深めると共にチームとしての情報や意識の共有、環境の再構成につなげる。 ・全職員の共通理解の場としての語り合いに加えて、今年度の研究テーマに基づく学びの場としてのグループワークの機会を各年齢で定期的にもつ。	・幼児は秋頃より子どもの姿や遊びの様子を話し合うツールとしてウェブマップを使用し、環境の再構成や意識の共有につなげることができた。 ・月一回の話し合いを各年齢クラスで行ったことで具体的に子ども達への関わり方を共に考え、教育保育の実践につなげることができた。	・全職員での語り合いの場やグループワークでの交流・意見交換を強化し共有化を図ってほしい。 ・ウェブマップを使用しわかりやすく子どもの心や行動を理解するよう考えられていると思う。
開かれ信頼される園づくり	園情報の発信	・乳児はその日の遊びの姿の個人写真を保育システム（icuco）で保護者に月1回発信している。 ・幼児は子どもの遊びの様子を『こどもだより』にて保育システムを用いて週1回発信している。 ・子どもの日々の様子や保育者との関わり、園の情報をホームページで月2回発信している。 ・ホームページや動画、写真を発信する際は、個人情報に十分配慮して取り組んでいる。	・子どもの遊びの様子を保育システム（icuco）にて、乳児はその日の遊びの個人情報を用いて月1回、幼児は子どもの遊びの様子を『こどもだより』にて週1回発信する。 ・ささはらこども園の日々の子どもの様子や園の取り組みなどを保護者や地域の方に伝えられるようにホームページや保育システム（icuco）、掲示板を用いて発信する。	・子どもの遊びの様子を保育システム（icuco）で用いて乳児は月1回、幼児は週に1回以上写真を用いて発信することができた。 ・12月から1月末までに保育システム（icuco）を用いて幼児は15回、乳児は8回動画を用いて子どもの遊びの様子を発信できた。 ・掲示板を用いて保護者や地域の方への啓発や、研修などのお知らせを発信できた。 <課題> ・掲示板の活用について、個人情報等の取り扱い方を再度検討し、園の取り組みについて地域の方にさらに発信していきたい。	・個人情報の取り扱いについては十分に配慮いただいていると思うが今後とも注意していただきたい。また特に写真や動画で発信する際には特定の子ばかりに偏ることがないように配慮していただきたい。 ・保護者への発信方法は園の様子がとてもわかりやすく良いと思う。 ・掲示板が園に出入りする人以外には足を止めづらく見づらい位置にあり、園からの発信を受け取りづらい。公園前の自治会の掲示板との連携を図ってみてはどうか。 ・保護者アンケート結果（肯定的意見85%）の記載がないため気にかかった。
	小学校との接続	・園での学びと小学校の教育に繋がっていくように意識して教育・保育をする。 ・子ども一人一人の育ちや学びを分かりやすく小学校へ伝えるようにしている。 ・今年度は小学校の研究会や園内研修にこだわらず、積極的に交流を図れる機会を検討している。	・園内研修や公開保育に小学校の職員を呼びかける。 ・小学校の研究会や授業参観等に参加したり、年1回小学校とこども園の職員同士が語り合ったりする機会をもつ。 ・どんぐり拾いや学校探検をしたり、校庭で遊んだりするなど、子ども達と一緒に小学校へ行く機会をもつ。	・幼保小の架け橋プログラムの研修には5歳児職員が参加し学びを深めた。 ・小学校の職員が多く来園し、教育保育の実態を感じていただくことができた。また、その後のグループワークで互いの単元について共通点を語り合うことができた。 ・引継ぎの際には、一人一人の子どもについてわかりやすく伝えるように意識した。 ・小学校の校庭で遊んだり（ささっこ DAY の取り組み）小学校へどんぐり拾いや園工展に行ったりして、学校を身近に感じる機会を作ることができた。 <課題> ・研修内容を園内で回覧を用いて共有しようとしたが、情報共有の難しさを感じた。抜粋したことを幼児会議や職員会議などで共有することで日々の教育保育にいかせるのではないかと感じている。	・様々な工夫をされているが定期的に行うように事前に計画しておいた方が効果的ではないか。 ・5歳児は就学に向けての期待と共に不安を感じている。実際に小学校に行く機会があることは子ども達の気持ちの安定や興味に繋がるのではないかと思う。また小学校の教諭に会い、話をしてもらうような場を設ければさらに期待や楽しみに繋がるのではないか。今後取り入れてもらいたい。
	地域交流 子育て支援	・笹原公園みどり部から花の苗をもらい、子どもがお礼の手紙を返している。（活用した様子） ・中学生から手作り玩具を受け取る。	・園庭開放の実施に向けて具体的施策を検討する。（園児と交流できる時間・1号認定こども降園後、昼寝中の時間等） ・地域の方のボランティア（こま等の伝承遊び、園庭の環境作り）を募集するために必要なことを進めていく。	・笹原公園みどり部からの花をもらいに行き、交流をもつことができた。 ・近隣の乳幼児保育施設へ研修会等を案内したことで参加いただけた。 <課題> ・園庭開放、地域の方のボランティアについては実施に向けた具体策を検討していきたい。又、近隣の施設との交流等も検討していきたい。	・笹原公園みどり部の方がこども園からの礼状を喜ばれていた。公園では様々な行事が行われている。機会があれば参加してみてもいいのではないか。 ・地域の方に子育て支援に関わってもらおうメリットが多い。そのための工夫がされていて良いと思う。

学校関係者評価総括	<ul style="list-style-type: none"> ・園全体としての共有の強化を進めていただきたい。（例えばグループの代表者が討議する場を作る等） ・成功（良い）例だけでなく失敗例を共有し次のアイデアに繋げてほしい。 ・悪い情報であっても即座に園全体に共有される仕組み作りに取り組んでほしい。 ・今年度の研究テーマである「夢中になって遊ぶ子どもを支える保育者の関わり」の実現に向けて一人一人を大切にされた保育の実践や職員会議が行われている。 ・子ども達が園でのびのびと過ごす姿が見られて良い。 ・保護者アンケートには設問があるが、評価表の重点項目に『安心・安全の環境作り』等の項目が無いため必要ではないかと気にかかった。
-----------	---

次年度に向けた重点的な改善点 今後取り組むべき重点的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の情報共有を今以上に適切に行うための仕組みの見直しや工夫に取り組む。 ・職員の協力体制のもと、職種や立場に関係なく全ての職員が学ぶ機会に出あえるようさらに調整を図っていく。 ・小学校との接続については、学校と連絡を取り合い年度当初に予定を計画するなどして、滑らかな接続が行えるよう積極的に実施していく。 ・子どもと地域住民とが繋がっていくよう、地域の方の教育力をお借りする方法を探っていく。
----------------------------------	--